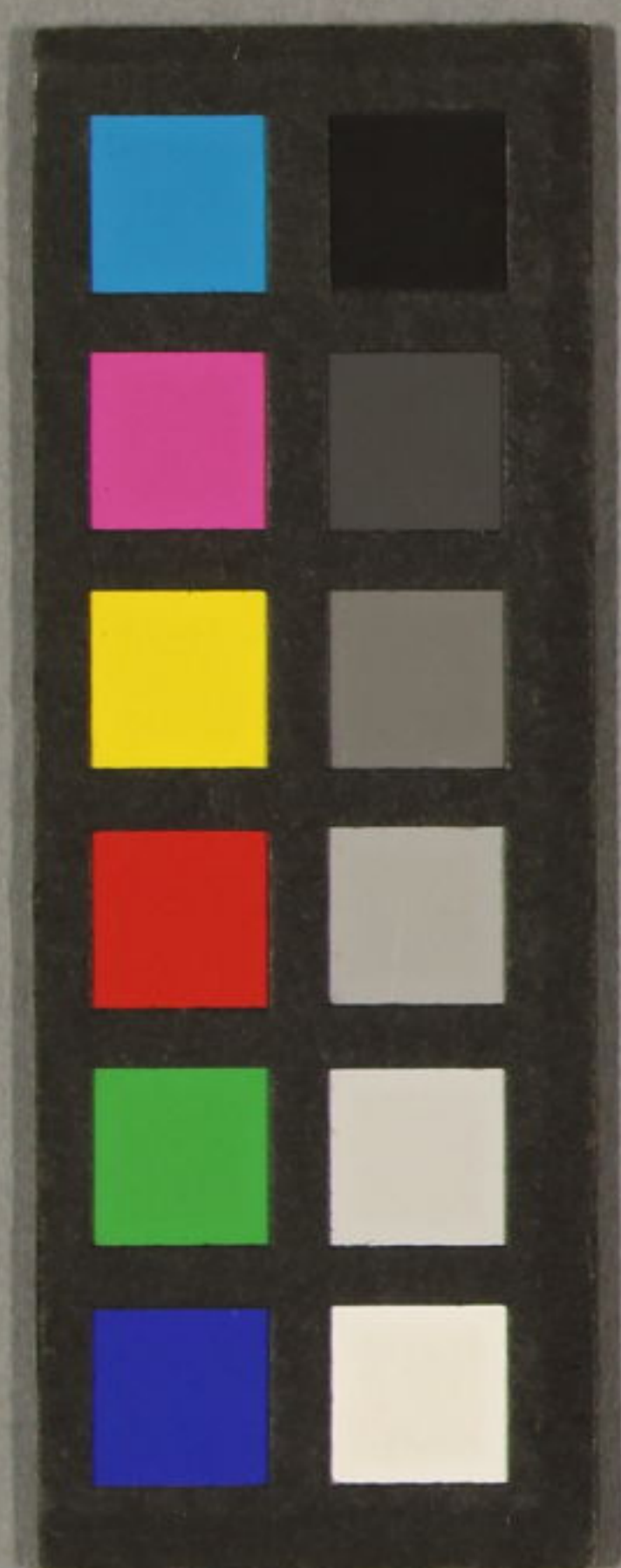


椿海潮堂編

諧
合人發句千題部類
二

利5
4131
2



利5
4131
2-2

惟借今人千影神類目錄秋之於
 七月一 八月 五秋二 七秋四
 浦秋 殘暑三 初涼 初秋
 星索 星連四 星會 星秋
 秋系 貸索初五 紹何 冬月
 州市 冬市六 岑臺 冬月
 柳經 凡可 於錄七 初露
 生牙魂 樹葉八 德流 送冷八
 橋符 踊 冬冷 角力九
 稻妻 秋風十 露 露秋
 秋露十一 露玉 霧 秋露
 柳樹十二 秋露 女帝 茶尔
 桔橙 桔橙 桔橙
 雀麦 雀麦 雀麦
 白露 白露 白露
 相一葉 相一葉 相一葉
 雀麦 雀麦 雀麦

目錄

本權	三	歲	七	為	務	茲	蓮	秋	七	茲	秋	七
我本	五	秋	滿	葉	蓮	美	秋	蘭	五	本	屏	莫
鳳仙	不	五	葵	七	南	九	州	編	不	五	瓜	苗
鬼	明	唐	辛	共	學	七	不	不	五	秋	七	出
曉	輝	輝	輝	六	壯	歸	輝	壯	出	葉	五	出
葉	出	歸	輝	六	壯	歸	輝	壯	出	葉	五	出
秋	暉	秋	暉	九	秋	暉	九	秋	暉	九	秋	暉
唐	山	別	明	子	干	引	板	八	月	葉	月	葉
八	節	回	面	日	初	月	月	二	月	廿	初	膏
名	月	今	月	廿	月	廿	月	月	廿	月	廿	月
名	月	月	廿	月	廿	月	廿	月	廿	月	廿	月
秋	月	廿	月	廿	月	廿	月	廿	月	廿	月	廿

幼	泉	淵	會	秋	會	五	秋	會	五	秋	會	五
身	入	野	分	秋	會	五	秋	會	五	秋	會	五
秋	會	秋	會	五	秋	會	五	秋	會	五	秋	會
落	水	秋	新	高	並	后	德	共	德	入	石	石
小	秋	落	葉	不	為	共	德	落	尾	不	不	不
紫	苑	落	葉	不	為	共	德	落	尾	不	不	不
秋	葉	系	瓜	秋	會	五	秋	會	五	秋	會	五
稻	前	田	前	掛	稻	落	德	初	每	五	今	年
秋	米	燒	末	秋	葉	初	落	德	初	每	五	今
酒	香	香	香	四	十	雀	秋	會	五	秋	會	五
本	家	何	乙	綱	泉	何	若	九	日	葉	葉	葉
南	葉	五	九	月	長	月	以	運	宮	九	日	葉

目錄

二

表吐一の弱来つと又月ト
 又月也川又おるのよの味安
 又月の面影又申る流も下
 又月也待りあうと秋の嬉し
 又月也一初くよの味も
 人子又秋よおとるさうの
 秋也中梅もさるるさうの
 秋也中葉合ふさうさうの
 秋也中吸かすさうさうの中
 秋也中めくさうさうの秋
 秋也中葉の持つさうの秋
 秋也中あまふさうの秋

昔古 菅原 万葉 通志 古伝 風朗 兄和 風眉 岩水 杜原 甘秋 里崎

三秋

今秋の秋
 秋也中隣あふさうの秋
 のいさぬ柱よあうさうの秋
 鳥先子の河也さうさうの秋
 井垣子人秋若やさうの河さ
 乙香の池をめぐりさうの秋
 つくくと見の喜やさうの秋
 本也中よえおら出まさうの秋
 風の吹さうさうさうの秋
 手さうのいささうさうの秋
 孝子又る遊さうさうの秋
 飯時の月我れ秋のさうの秋
 初秋の音秋舞え流れさうの秋

上毛 つく経 菅原 院叟 昇左 梅通 左言 本替 左南 一森 の大 雲松

初秋

秋

二

春秋

初秋の夕きい山の暮かき
初秋の夕きい山の暮かき
白く染まりたる秋の暮より
秋の暮より出来たる夕き
ついでに秋の暮より
秋の暮より
秋の暮より

月 子 確 梅 水 真 信 喜 梅 大 志
月 子 確 梅 水 真 信 喜 梅 大 志

浦秋

残暑

浦秋の夕きい山の暮かき
残暑の夕きい山の暮かき
浦秋の夕きい山の暮かき
残暑の夕きい山の暮かき

下 喜 梅 大 志

初秋

初秋

初秋

初秋の夕きい山の暮かき
初秋の夕きい山の暮かき
初秋の夕きい山の暮かき
初秋の夕きい山の暮かき

下 喜 梅 大 志

秋

七夕

洗ふも祝事なりけり
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
故屋約すかたは七夕の夜
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け

水若 養乳 滝山 古翠 水 丹鷲 牛鹿 存友 追符 棲棠 露英

星逢

七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け

牛鹿 存友 追符 棲棠 露英

星聚

七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け

牛鹿 存友 追符 棲棠 露英

星金宵

七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け

牛鹿 存友 追符 棲棠 露英

星表

七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け

牛鹿 存友 追符 棲棠 露英

様葉

七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け
七夕の夜も人々の情け

牛鹿 存友 追符 棲棠 露英

秋

要事

豊前守多々也何と答ふは其の約程

仁戸

普慈

墓系

代人程此一の事一墓あり

人

草市

草市や夕村向の事と云ふ事

西

盆市

盆市の中より何と云ふ事

志水

草市

草市の中より何と云ふ事

松

草市

草市の中より何と云ふ事

旗

草市

草市の中より何と云ふ事

一

草市

草市の中より何と云ふ事

女

男も程月影は来はれ

山

秋

六

川折
 指月
 岑月
 而月
 月后
 後年
 初冬
 流芳
 歲夕
 雄峯
 橘葉
 野麦

切露
 一具
 万壑
 布水
 雲流
 乙居
 在溪
 在我
 西晴
 折柳
 橘葉
 不然

秋

二

踊

恙ふきのまきてふりりのもろり
 向きの面とあるまてととろり
 単きあまかきりりるをとろり
 疾りよのつ月あり踊りうれ
 ねの根をよけし構ひある踊り
 途よりて見えしつれぬのむろり
 坂口の音よとるまをれをり
 よと音あき子のたつまりとるま
 里えよのめつうねをれむり
 せえよのねのきりるもれをり
 川城の三派はとるれ角力
 君代子あつとるかきる角力

福山
 此風
 素手
 文左
 素龍
 杜替
 素化
 吾推
 水揚
 大調
 京代
 梅宮

角力

足火

徳屋系

二百十

婿しちしね精進甲角力
 是とろりてふあつある角力
 去りぬるもつあつ角力
 舞とろりつれとる角力
 風あつとる業あつ
 所あつとる業あつ
 こ徳屋系あつとる業あつ
 子あつとる業あつ
 せうとろり二百十乃竹
 藤とろり二百十乃竹
 孫の月二百十乃竹
 ちとろり二百十乃竹

京代
 松竹
 甘山
 昇峰
 素り
 雀橋
 一具
 岳
 坂加
 京代
 木剛

秋

乙

草霧

冷きもの白き霧のー

草霧

月を照らす霧の

風石

と月を照らす霧の

宮明

と月を照らす霧の

文彦

と月を照らす霧の

梅枝

白露

白露の露を

水信

白露の露を

不齋

白露の露を

函侯

白露の露を

吉武

朝霧

朝霧の霧を

二窓

朝霧の霧を

のれ

朝霧の霧を

上毛

夕霧

夕霧の霧を

守吉

夕霧の霧を

羽輕女

露玉

露玉の露を

岩外

露玉の露を

確炭

露玉の露を

溪高

露玉の露を

岳鳳

霧

霧の霧を

斗六

霧の霧を

梅嶺

霧の霧を

梅嶺

霧の霧を

海布

朝霧

朝霧の霧を

生

朝霧の霧を

里

桐一葉

霧がぬれぬささるるの海
霧がぬれぬささるる繩子ト
ささるる一箇うけて桐一葉
霧がぬれぬささるるか桐一葉
らつひ苦のたれぬささるるか桐一葉
控へ来ると清くささるるか桐一葉
桐一葉落るとささるる小庭
昔のささるる先子落ると一葉
吹風もささるるとささるるか桐一葉
折枝いぬささるるとささるるか桐一葉
ささるるとささるるとささるるか桐一葉
柳ささるるとささるるとささるるか桐一葉

崔櫓
梅翁
京郎
塞馬
氷蓋
平橋
柳加
陵山
松之若
里孝
之つ女
古流

折敷

朝顔

女帝

霧がぬれぬささるるの海
霧がぬれぬささるる繩子ト
ささるる一箇うけて桐一葉
霧がぬれぬささるるか桐一葉
らつひ苦のたれぬささるるか桐一葉
控へ来ると清くささるるか桐一葉
桐一葉落るとささるる小庭
昔のささるる先子落ると一葉
吹風もささるるとささるるか桐一葉
折枝いぬささるるとささるるか桐一葉
ささるるとささるるとささるるか桐一葉
柳ささるるとささるるとささるるか桐一葉

松竹
山教
柳加
尺和
桂葉
大歌
下居
出願
佳風
一高

秋

三

茶

七州の産をこわしや男を

鳳樓

枯枝

山丘の枯れたる枝枯れ
申別うもや濡衣の枯れ
風吹き子枯れ嘆たり秋のうら

西石

雀麦

雀麦は秋の交るより
雀麦は余の志を自ら
羨嫉の情を一時の本懐

雀麦

木槿

木槿の情をささるる
秋夕の情をささるる
情をささるる木槿の志

木槿

菊

菊の情をささるる
秋夕の情をささるる
情をささるる菊の志

文之

藤

藤の情をささるる
秋夕の情をささるる
情をささるる藤の志

二丘

芭蕉

芭蕉の情をささるる
秋夕の情をささるる
情をささるる芭蕉の志

可大

萩

萩の情をささるる
秋夕の情をささるる
情をささるる萩の志

雅

秋

三

終虫

白りりたるる物子遊りて

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

終

終

終虫

終虫ハ處ふりる處の音をうた

一毛

白彦

書山別

嬉以中野一亩乃白信云

一慶

素山子

嬉以中野一亩乃白信云
山のいづれも春の別れ
山乃を
山乃を
山乃を

素山子

吟子

嬉以中野一亩乃白信云
山のいづれも春の別れ
山乃を
山乃を
山乃を

吟子

引板

田つる人の子を引く
引板の
引板の
引板の

引板

八月

八月
八月
八月

八月

葉月

八月
八月
八月

葉月

八月

八月
八月
八月

八月

二

八朔や重の暮きも秋のうら
 八朔や佳言楽言やうら
 八朔や とうりもうらハ 蘇一も 江戸
 八朔や 重の暮きののからき田舎の
 重一も 重の申る田舎の物や
 目百 見えぬを憶えたるや目百
 袖子風ゆつてかゝるや目百
 初月 初月や重のうらうのきく新萩
 戸口より重のきけし初月萩
 茶合の掛見し初月萩
 秋のうらうらもあし初月萩
 二の月 二の月やあきの暮の暮る所
 西月

二の月を見よ出でたる人の舟
 二の月や入江子めく子ゆり
 ふりとの山只さうし二の月
 二の月のあつちや 舟子風のき
 重のうらうの暮る二の月の
 二の月のうらうも 蘇一も 蘇一も
 待宵 待宵はゆらぎもあし一月の暮
 二の月やあきの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮

待宵 待宵はゆらぎもあし一月の暮
 二の月やあきの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮
 重のうらうの暮る一月の暮

名月

約曾平山又空也子保り下毛 子孝
 名月平吉くく落る井の露 号室
 名月平江く半る落る花の香 香岳
 名月ののれてききく半井の露 種好
 名月平雲の志もくを何とせん 老圃
 名月平江子を屋き山はあ 如蒙
 名月平新 なる虫に啼ききき 菊富
 名月平山の落のかくあひき 昇月
 名月平本くく半の何なる香 五楼
 家毎子くく半新落るくく月 唯炭
 何とくくあつてくく似はくく月 田誓
 種ゆも大切なるあをあつ月 一具

今月

月令書

秋さくく平海を限りまきく月 反蔭
 乘之れ船のきききやくく月 本ら
 あり本をさくくききくく月 松富
 かの入もさくくききくく月 美翠
 月令書に雲子眼のりを膏也 獲物
 秋の秋を信はる月を膏也 長糸
 竹植一甲型くく月を膏也 上毛 嶽生
 の秋秋もえききく月を膏也 伊那 柳生
 酒者持て燈をくく月を膏也 奈序
 月令書やの秋秋もえきき 雀吹
 山里ハ山をお子の月を膏也 上井 豊川
 月令書に秋秋もえききくく月 嵐井

秋

八月廿五日 秋の月
 九月 霜の月
 十月 楓の月
 十一月 雪の月
 十二月 梅の月

八月廿五日 秋の月
 九月 霜の月
 十月 楓の月
 十一月 雪の月
 十二月 梅の月

秋

廿四

この方の書を致す 小倉

何れを南に空飛り 遠近

為一を山嵐の波はもあうらう

約東や梅子目に刻出るまこ入

約果や行よる行り 市の中

親のふりも年八歳を約座に

高き一か行へ志す非流し

高き一か行へ志す非流し

高き一か行へ志す非流し

高き一か行へ志す非流し

高き一か行へ志す非流し

表彦

文之

茶耶

空有

系雅

溪岳

雅哉

朝之素

一之

向彦

新一

斗六

鞠

謝

朝

水

夜

冷

水字や細くとも五知り少

水字より人教うつる流れ下

水字や造作のまき山乃坊

本のみくも秘伝ちまこの水字

まき屋よりまき屋へまき屋

虫の音は細くありけり水字

てててててての燈の水字

古今を思ふ松蔭の水字

夜字一文字をこれの松蔭

夜字も表の表のつとむる表

夜字も表の表のつとむる表

冷字も表の表のつとむる表

柳里

菊園

文友

崔叟

茂推

久美

桂園

松蔭

松蔭

松蔭

松蔭

秋

十五

冷かき先立廿のそよよ

身入

男よより子よ身入の縁森くを

万登

聖分

下り葉を存のそれる聖分を

子美

琴古の鳥の出す聖分を

一洞

明沙る月のそよよを

玉采

秋空

表子のくえんあうまう秋の空

守岳

子の戸やそよよを

一行

種一つきう傳葉すり秋のそよ

鹿菜

秋空

雲の山のひれとらんを秋の空

古武吉

秋山

わのそよよを清く秋の空

不第

海山をくくくを秋の空

抱儀

そよよをそよよを秋の山

唯嶽

秋夕

秋のそよよを清く秋の山

古武吉

表子のくえんあうまう秋の山

秀芳

子の戸やそよよを

子孝

種一つきう傳葉すり秋のそよ

多美

雲の山のひれとらんを秋の空

由之

わのそよよを清く秋の空

舍用

海山をくくくを秋の空

里孝

そよよをそよよを秋の山

柳加

秋

十六

表子のくえんあうまう秋の山

云夕

秋

秋の暮 江の松き 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 江の暮 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋雨

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋の暮 葉袋 秋の暮

上毛

集玉

秋

十一

存

初二日雨ふゆ多や、中夜さぬ
 折しゆを以隣りあふて小夜宿 伊勢
 多きよあまきよきよきよきよ
 以てて牛も森をぬきぬきぬ
 けりけり風の小りきききき
 約半をききけりけりけりけり
 提てけり子も風もゆりけりけり
 小口も風もちのつもききき
 明もきぬ居を接もけりけりけり
 押さけて番ききききききき
 鴨川の上もききききききき
 仮初子出まき中夜やききき

重原 貞直 全郎 松隣 元路 榴葉 敦川 権好 千齋 金珍 有若 梅全

不存

嬉存

よい風の春を舞うゆ中もききき
 元もゆりき江に流せりききき
 以ててててててててててて
 かのきききききききききき
 押さきききききききききき
 けりけりきききききききき
 雲のけりきききききききき
 以ててててててててててて
 尾も以ててててててててて
 流りけりきききききききき
 大系や尾もむむの款もきき
 多きよの存もきききききき

嵐月 星布 雲在 小轉 冬以 秋葉羅 如家 吾雅 一朗 長水 田富 菊枝

秋

其

田

親子とて懐く親子の田新
新佳了産遠出乃田うえ
風善まきうや田の并い人

下井

確炭

風破

子行

若水

掛

是稲干垣みかろふい新乃家
か付稲の行をー持は板下
是稲の夢う白入や家出り

下毛

素人

梅后

涼出

里麦

一葉

葉宇

情高

落

神垣人の程と表落穂
若くは既産うも半は落穂
はりま終持こもー落穂ハ

稲

稲新や月を水のきて宮上川

金

着神一神儀の儀てこもー米
白のくぬ家不きよこもー米
新と申もきこもるをそに米

下毛

米重

米重

孤竹

橋月

名不

象雄

不入

名山

了古

天橋

西遠

素相

新

新米や稲子向屋八月のき
新米や崔乃祝と白の并
焼米の佳味てらまき白ひく

上毛

象雄

不入

名山

了古

天橋

西遠

素相

新

新米や留ま居はつて予う
新米や通う居るに指予予
のりかれくてハま崔う

稻

追りきぬ人子函り稲を免
贈やうまうちよ香り稲をわ

秋

三

初唐

初唐平心よとめる数々ありき
その唐平心よとめる唐の影よあり
初唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり

多与也
上白
号川
一貝
梅菜
交後
尚日
皎月
佛珠
里江
海二
種好

唐

唐

唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり
唐平心よとめる唐の影よあり

和善
与善
与善
与善
与善
与善
与善
与善
与善
与善

秋

四十雀

四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり
四十雀平心よとめる唐の影よあり

白彦
作子

三

綱

地行... 綱

映

河

流方... 河

江

友

流

流... 流

井

流

流... 流

寸

山

流

流... 流

山

九月

九月... 九月

上

山

九月

九月... 九月

丹

山

九月

九月... 九月

伊

山

九月

九月... 九月

伊

山

秋

葉

秋時雨

庭をハ木葉の吹ひ落しし
未刈色も雨の掃く露時自
書本の葉もかき落し時自
香るて露のあまらば、の車
実をいそぐ秋の夜時自
鳴るるの鈴聲よおとす秋の霜
車あつたの葉も吹ひ落し秋の霜
名のつたの州を吹ぬに秋の霜
虫もももあまらば、秋の霜
秋の霜も吹ぬに秋の霜
うらみは、秋の霜も吹ぬに秋の霜
未枯の中や秋の霜も吹ぬに秋の霜

未枯

信史
以見
根富
津橋
尚日
無
在
我
香
橋
橋
人
吾
旭

破笠置

未枯の中や秋の霜も吹ぬに秋の霜
芭蕉葉も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
心は静けさの中や秋の霜も吹ぬに秋の霜
破きく風情も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
芭蕉葉の破きく風情も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
夕葉の吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
香紅葉夕の吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
香紅葉の吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
夕葉を吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
夕葉も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
兄を吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜
夕葉も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜も吹ぬに秋の霜

香紅葉

紅葉

田
橋
京
学
庄
山
里
文
橋
田
三
三
子

秋

三

四五尺の山に紅葉の中より
 凡雨のふるる日の暮る紅葉
 何の木も枯れぬる日の紅葉
 水鏡のうつる日の紅葉
 さあくの紅葉の紅葉
 紅葉の情や深き紅葉
 年々紅葉の紅葉
 紅葉の紅葉
 本日の紅葉
 紅葉の紅葉
 紅葉の紅葉
 川岸の紅葉
 紅葉の紅葉

位信
 崔棟
 石中
 完其
 清風
 確岩
 古武
 杜松
 相居
 鶴水
 雪頂

紅葉の中より
 凡雨のふるる日の暮る紅葉
 何の木も枯れぬる日の紅葉
 水鏡のうつる日の紅葉
 さあくの紅葉の紅葉
 紅葉の情や深き紅葉
 年々紅葉の紅葉
 紅葉の紅葉
 本日の紅葉
 紅葉の紅葉
 紅葉の紅葉
 川岸の紅葉
 紅葉の紅葉

位信
 崔棟
 石中
 完其
 清風
 確岩
 古武
 杜松
 相居
 鶴水
 雪頂

秋

三

三

相実

ひろくぬね子起し河り表の向

相の雲や不破子よる修高のきま

相のくや一りぬえきわのゆうる

梅娘

葉の落る中り娘一

あらう実を結ひう梅娘

翠のほは入りの影やう梅娘

柿

淡柿や志信をうけ垣のふ

淡とるもを託去や葉の枝

あふくもこのそと一う空土産

淡柿のうれきうる表市や

栗

秋栗子通ひあふる葉う華

今落る栗の光るや西のうけ

一陽

石橋

志徳

長莊

嵐光

月邦

古武

惟州

葉山

文友

如美

推寧

落栗や表も新なる垣のふ

表さうらの青粒落は形の栗

ふりあきを拾ひ力や新造推

りのまはるるさしと推の落子表

本寧

推の雲や引山をける封本の

ふる宙の井子も落る本のさ

けのけのゆらもあふ本のさ

そまも葉子表りて拾ふ本のさ

九年舟

九年舟やん連のらうるさり兜

一昨ののゆらもさは九年舟

来るさ子あふく料なる通字

二ころつてくわ如や通字表

種好

葉山

左我

樹石

一友

千表

杜流

源半

乙居

左言

梅嶺

梅堂

秋

旦

時表

菊

笑は口夕夕のさー山通州より
 露の味いけぬうーと菊のうり
 葉の中央へて著さるる菊の
 志もさるるおの美もゆる菊の
 こゝろさるる友こーらして菊の
 其心さるる松葉のさるる菊の
 松葉のさるる菊のさるる菊の
 さるる菊のさるる菊の
 左をさるる菊のさるる菊の
 双方乃山くわさるる菊の
 人をさるる又峰さるる菊の
 菊のさるる菊のさるる菊の

若

若の新山をさるる菊の
 峰若のさるる菊の
 油のさるる菊の
 猶存の扶子さるる菊の
 余の目さるる菊の
 お掘の陸さるる菊の
 冬迄さるる菊の
 冬をさるる菊の
 行秋さるる菊の
 行秋さるる菊の
 行秋さるる菊の
 行秋さるる菊の
 行秋さるる菊の

秋

目一

竹葉
 白峰
 菊山
 里嶋
 由松
 松屋
 疎花
 梅谷
 大梅
 杉曉
 海布
 老圃

目一

桂枝
 桂葉
 松葉
 竹葉
 松葉
 松葉
 松葉
 松葉
 松葉
 松葉
 松葉
 松葉

時雨會

菊の香も尾もふるまき一ツト毛
 きの波
 月秋
 燈梅
 山敷
 双鹿
 梅令
 床布
 唐子
 杜若
 立宇
 梅月

以命傳

以五載

表傳

玄機

初時會

初月
 梅栄
 風洞
 古武良
 鳳石
 下堂
 由藝
 松末
 霞岬
 流石
 有若
 き波

松の葉子白くして厚く平和時白、
今きくく音を吹く和時白 上毛
揺人のくまうり子若平その時白
大粒と輝く和時白 和時白
袖の巻平時白 和時白の細り
眼まのなき無重くも津志それい
長縁手おのくまうり行時白
わの敷のまうり時白の廣帯うり
若くも平の白扱着のあつつき
さかんくく時白かき無重の登
波濤の吹くくまうり時白うり
雪白くく厚帯のくまうり時白

燕二
柳木
高華如
一具
梅笠
虎若
乙人
龜迹
通志
雨扇
雪云

時雨

白の如く又なき時白の梅子か
立接りまをおきつて時白の空
時白のくまうり子もあつて然る
鷲啼 雪平時白の如くく
あつ時白五日子あつて二度通る
過き事なき香のさうりやあつ時白
雪子あつ月あつ子あつてあつ時白
十二粒半の消了 和時白
松子あつの氣沙りてあつそれ
夕時白 降出くく香の止あつり夕時白
松の葉の時白子あつるゆふ下
松風の吹くあつれて夕あつる

水月
立左
雪若
桂水
白鷲
和月
美翠
杜鰲
海堂
雪山
云峰
云松権

冬

初霜

兼島子嘗之や 吾乃向

下毛 流折

去の霜や 吹く雪の家の小窓口

崔岐

初雪

去の雪の晴る時 秋の明子帯り

尾村 伝手 古武吉

初雪や 霜を病む人比 娘一歌

月国

初雪や 雪のけしき 兼乃有

律尚

初雪や 水もさる ぬれ雲山

榮山

霜

初雪や 人語 一りのあやうき

玉清 一の雪 尺亦

大霜や 海を渡る 舟のあやうき

嵐島

指の霜 神侍 去るや 後一松

上毛 松中

是たの 妙り 霜の雪生うる

東玉

初霜や 新珠 赤き雪 麦冬

霞眼

初霜や ついでに 雪の上より

守東

雪の 舟に 公輝るや 霜の如

月秋

流せり 雪も ころも 舟の雪

一 碩

雪の 舟に 雪の 舟の 舟

雪 舟

舟の 舟に 舟の 舟の 舟

舟 舟

冬

二

冬 冬の夜や机の先のつり後

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

末

比

折

好

崔

素

就

茂

里

川

冬の夜や机の先のつり後

冬の夜や机の先のつり後

冬の夜や机の先のつり後

冬の夜や机の先のつり後

冬の夜や机の先のつり後

冬

冬

冬

冬

冬

冬 冬の夜や机の先のつり後

冬 冬の夜や机の先のつり後

冬 冬

冬 冬

冬 冬

冬 冬

冬 冬

冬 冬

冬 冬

冬 冬

冬 冬

冬 冬

水

山

高

橋

村

名

言

希

名

橋

通

末

水

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

冬

布園

若きハ好ミ持テ云々

霞菜

投中ニ云々

和菜

何と云々

魚菜

云々

梅菜

云々

桃菜

佛檀子

白峰

取中

之章

人老

桑杯

云々

田菜

云々

醬山

岩

和湯

岩窟

月の光を透りて

悠々

山中

兄弟

影の長

空老

岩を穿つ

其松

のささ

知月

岩の美

一洞

岩壁

月秋

岩窟

洞窟

云々

飯菜

岩

雪浦

岩

橋菜

岩

鬼折

山房

冬

五

四

聯

寒疾

紅葉

落葉

保たのりもきぬや秋あつ紅の香
 深の子よいそくそく金や紅葉橙
 霜屋けの手は雪きき雲より
 常中けや山坊の児のけが
 うららのまもるまもるわ
 山よりそくそくやいりちる紅葉
 つららの約瓶落しや秋あつ葉
 空をそくそく伝ちるわ
 雪うらるる屋の上の落葉うら
 らるるそくそくは紅葉の流
 下白くそくそく紅葉をわらうら
 吹くけがらうらわらうら紅葉

惟
 吟
 由
 雪
 和
 葉
 山
 里
 孝
 布
 衣
 丹
 頂
 赤
 葉
 如

落葉橙

木葉

落葉そくそく素懸子あつぬ小里山
 山更や落葉の下の香あつ
 似る家のつらや山更やあつ落葉
 めくそくそく落葉の中の小家うら
 らるのそくそくそく人よ落葉のそく
 向る家木をけしけしや落葉うら
 極道そくそく海そくそく落葉うら
 其の側へ子の舞をそくそく落葉うら
 山更の落葉をかきの小ま舞うら
 白風のそくそくそくそくこのそく
 掃きぬけける程あつ木のそく
 家そくそくそくそく木のそく

扇
 風
 柳
 依
 素
 凱
 楊
 柳
 悠
 悠
 奈
 那
 柳
 如
 之
 千
 齋
 涼
 葉
 素
 柳
 壯
 依

冬

葉

心草

あまのこころのたのしみや葉のかましく
眼よりくもるをさきかきたる花のつれ
人ゆゑに思はぬの心あはれつゝ手は丸
昔懐かしのさくらをばハツ子咲
白の葉の白あけのやうなハツ子
葉とてよきとてむをいつゝもハツ子

石菖蒲

石菖蒲や近きよある葉をば
石菖の葉をばとや石菖の葉
葉は似て咲はれさや石菖の葉
徒のよは花をば見ぬ石菖の葉
あまのこころや咲けハまをんも
あまの伸てむまの葉やうら

水仙

あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら

冬

あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら
あまの伸てむまの葉やうら

冬

冬

巨三

依堂

梅堂

懐葉

江月

雅堂

伯人

吾人

在野

高野

嵐高

相王

暖山

丹子

漢物

而后

荳角

白峰

就南

梅翁

吾水

田高

五折

枯菊

昔のしを枯菊をみる天来りし土羽
君をよ子葉いられしと州枕
床の葉も枯れぬるかきりし
枯菊の葉もつゆの月より
ささく風の吹あう秋も
うらまのわくはてしなく枯れぬ

羅古
守成
耕高
老圃
長生

枯萩

空押の大小の萩も枯れり
宵月や萩の影も枯れり
とま枯れぬ風をよきと萩は
枯れぬ萩とよきと萩の萩
枯れぬ萩とよきと萩の萩

夷別
添香
素明
長生
一羽

枯萩

とま枯れぬ風をよきと萩は
枯れぬ萩とよきと萩の萩
枯れぬ萩とよきと萩の萩

素明
長生
一羽

枯芭蕉

枯れぬ萩とよきと萩の萩
枯れぬ萩とよきと萩の萩

一羽
素明
長生

枯草

枯草の中をよきと萩は
かき草の中をよきと萩は
風枯れぬ萩とよきと萩の萩
つと枯れぬ萩とよきと萩の萩

枯儀
朱豆
音高

枯藤

言彼の名のよきと萩は
あそび枯れぬ萩とよきと萩の萩
うらむ過すのよきと萩の萩
あそび枯れぬ萩とよきと萩の萩

可味
墨通
聴性

枯竹

あそび枯れぬ萩とよきと萩の萩
うらむ過すのよきと萩の萩
あそび枯れぬ萩とよきと萩の萩

可精
月庭

枯蘆

あそび枯れぬ萩とよきと萩の萩
うらむ過すのよきと萩の萩
あそび枯れぬ萩とよきと萩の萩

如竹
書莊

冬

冬

枯谷

水ノ底ノミエトシテ其ノ枯葉ノ
多ク其ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

古

止

後

村

冬

冬ノ葉ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

冬

村

枯野

枯野ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

信

野

冬ノ葉ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ
枯野ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

山
水
光
野
野
野
野

冬

冬ノ葉ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

冬

冬ノ葉ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

冬

冬

冬ノ葉ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

冬

冬ノ葉ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

冬

冬

冬ノ葉ノミエトシテ其ノ
枯葉ノミエル程其ノカレキ程
多クシテ招キ葉ノシテ其ノ

冬

冬

冬

志徳
 為徳の
 墨迹
 古蹟の
 字大
 一介
 雅然
 老圃
 田高
 梅室
 尼亦
 五溪

志徳
 為徳の
 墨迹
 古蹟の
 字大
 一介
 雅然
 老圃
 田高
 梅室
 尼亦
 五溪

冬

麦

志徳
 為徳の
 墨迹
 古蹟の
 字大
 一介
 雅然
 老圃
 田高
 梅室
 尼亦
 五溪

大根

志徳
 為徳の
 墨迹
 古蹟の
 字大
 一介
 雅然
 老圃
 田高
 梅室
 尼亦
 五溪

手

志徳
 為徳の
 墨迹
 古蹟の
 字大
 一介
 雅然
 老圃
 田高
 梅室
 尼亦
 五溪

冬

廿三

志徳
 為徳の
 墨迹
 古蹟の
 字大
 一介
 雅然
 老圃
 田高
 梅室
 尼亦
 五溪

夕子香

並松子香の跡りて香あらし

下丹

海草

小菖香

山吹しよるゆへに江や夕子香

上佐

如井

小菖香

風よる香の香も一や夕子香

上佐

香芳

小菖香

小菖子香の香も一や夕子香

上佐

萱燈

小菖香

夕子香の香も一や夕子香

上佐

大燈

小菖香

夕子香の香も一や夕子香

上佐

一秋

小菖香

夕子香の香も一や夕子香

上佐

一白

小菖香

夕子香の香も一や夕子香

上佐

一白

小菖香

夕子香の香も一や夕子香

上佐

一白

小菖香

夕子香の香も一や夕子香

上佐

一白

浦子香

新香もあつて程多し一溪子香

尚曰

浦子香

あつて程多し浦子香

柳香

浦子香

あつて程多し浦子香

一秋

浦子香

あつて程多し浦子香

一秋

浦子香

あつて程多し浦子香

一秋

浦子香

あつて程多し浦子香

一秋

浦子香

あつて程多し浦子香

一秋

浦子香

あつて程多し浦子香

一秋

浦子香

あつて程多し浦子香

一秋

浦子香

あつて程多し浦子香

一秋

冬

廿六

廿六

有明

人の思ふはあはれくさるる言

文友

有明

有明やあはれくさるる言

乙五

有明

有明やあはれくさるる言

千子

有明

有明やあはれくさるる言

貞富

有明

有明やあはれくさるる言

由華

有明

有明やあはれくさるる言

象雄

有明

有明やあはれくさるる言

大鵬

有明

有明やあはれくさるる言

梅室

有明

有明やあはれくさるる言

知月

有明

有明やあはれくさるる言

白彦

有明

有明やあはれくさるる言

知月

有明

有明やあはれくさるる言

逢流

有明

有明やあはれくさるる言

以兄

有明

有明やあはれくさるる言

不入

有明

有明やあはれくさるる言

曲江

有明

有明やあはれくさるる言

根島

有明

有明やあはれくさるる言

飯塚

有明

有明やあはれくさるる言

有明

有明

有明やあはれくさるる言

有明

有明

有明やあはれくさるる言

有明

有明

有明やあはれくさるる言

有明

有明

有明やあはれくさるる言

有明

有明

有明やあはれくさるる言

有明

冬

有明

唐迄

有明子唐迄い

正相

納豆

相風平い

尚曰

納豆

歳末きや唐迄

台

納豆

有毎平世

台

納豆

よ

台

納豆

相

台

納豆

相

台

納豆

相

台

納豆

相

台

納豆

相

台

納豆

相

台

納豆

相

台

納豆

相

台

納豆

相

台

人々を備は

市上

我

其

業

雅

中

多

不

和

か

升

亦

士

若

露

の

千

映

由

保

可

保

築

保

築

冬

三十五

大車 大車平儀のくく子並子幅
 大年 大車平儀の往來のまねのまね
 年日 大車より目出度年の入のうれ
 掛乞 大車より目出度年の入のうれ
 小晦日 大車より目出度年の入のうれ
 人々 大車より目出度年の入のうれ

牛 大車より目出度年の入のうれ
 鵬 大車より目出度年の入のうれ
 涼 大車より目出度年の入のうれ
 万 大車より目出度年の入のうれ
 董 大車より目出度年の入のうれ
 和 大車より目出度年の入のうれ
 振 大車より目出度年の入のうれ
 波 大車より目出度年の入のうれ
 一 大車より目出度年の入のうれ
 涼 大車より目出度年の入のうれ

大晦日 大晦日
 古曆 古曆
 巻返曆 巻返曆
 図見 図見

大晦日 大晦日
 古曆 古曆
 巻返曆 巻返曆
 図見 図見

葉新 大晦日
 葉葉 大晦日
 勇賀 大晦日
 五好 大晦日
 里嶋 大晦日
 伯末 大晦日
 極命 大晦日
 呂羊 大晦日
 白彦 大晦日
 添半 大晦日
 燈井 大晦日
 香 大晦日

終

三

二所仲為の口をわけて
有精子如きくねの明子亮
今白堂のく思ふ斗りの音我系
連子如くくく之保の如系
そ一紗子思ふ業を皆に海し
善由まうか子啼しつと上
右月の色をわお後し月の秋
夜子傳るまの傳る業り松
と秋家ゆ通りの音子思明
那とあるま傳るくねの體
一とまう降て晴るる音より
精のありよ最る若の芽

頂 嶺 頂 嶺 頂 嶺 頂 嶺 頂 嶺 頂 嶺

おのふよりと連のまきむの音
書下字まきぬ月乃 鐘

頂 嶺

程ま子まわりのさくやを 籠
くまのくくまをさくまの啼
我がまする若の素淡の情明
初日子暮のくまする舞 新
山更の店一初傳 高の月
まのまると子婚の自のちるま
若子まのし以伝の秋ままとま
那子婚のくまの一無乃 月

頂 嶺 頂 嶺 頂 嶺 頂 嶺 頂 嶺

冬

五

脚くき無為の是空子終身を
時色子ゆゆる系町乃指
智梁の上子ハ空子空か
涼一い月子をい薩明る
夕歌の柳一をい子空のさ
多めお子よつと初の一傍案
宿積の出船ハ空人ハ帆をよ
何おと噂しよ々々々々々
通ハ橋子き一と遠はた
孫と彦との離兄三たり
市用もはりの推ハ初と空
茶葉子中もよ々々々々々

曉園曉園曉園曉園曉園曉園

本坊一庵き空子ハ百里先
空くさけねハ是も持歩
新ハ探位ハ異空ハハハハ
空手免之初ハハハハハハ
新海子ハハハハハハハハ
孫ハ細乃留ハハハハハハ
妻ハハハハハハハハハハハ
和葉子空ハハハハハハハ
云々月ハハハハハハハハハ
宋賢報ハハハハハハハハハ
仕合ハ空ハハハハハハハハ
空ハハハハハハハハハハハ

五園曉園曉園曉園曉園曉園

冬

四六

暗物を足跡はくはく噂つるは
遠くをまつるいやくと永き白
町懐子宛仕する茶の如竹
美の冥か子、河よる京原

心程をよひ中の一歩やうき
まの秋ふりひの月子あつし
一掃々市の崩進を後まき
いつは星塔にこころり
西風の吹まき一たい宙のふり
麦荷を先ハあつし襟に

確炭

左 炭

左 炭 炭 左 炭 炭 左 炭 炭

冬
春をこつみおちるは親子
春の草子つり薪仕行
河光らる梅の枝は紅葉
汐時きくはあつし河魚つり
冷くは雪の晴り、秋の月
移るるり花を占りあつし
掛底を岩峰本縁を置や
奥大石の道り元子奉利
曇るる中をまき花を占りあつし
梅子ま、うきる見乃橋
初を子人目をかきるり花思
春の鏡、鳴るる多梨の長葉

左 炭 炭 左 炭 炭 左 炭 炭

往來の歌いさよふ月あ
撥りけりて老るト泣し初
長き軒あり子百舌啼き
妙なる路水の廣き継強
清る本もなき花を水に
おのれと歌はえを無方さ
鄙めくは流るるの妻長き
の並けりて海本ふりり
歌子あてたりて思ふ待りし
恙のまゝ歌るる空の細う

梅笠

頂笠 頂笠 頂笠 頂笠 頂笠 頂笠

幻子あやうの唄やらん
朽くも各の歌子倒る
結多し水も無南力子月は
霞の別條の子きき新
伊垂釣の釣竿 雲は乃子
ちとの子もかゝる道 所
松先刀夢をいふこゝろ
初ねの鳥の 宙の晴は
蕨のさききききき唄 性子
雲とれとれかゝる歌
妹の縁の肉梅を結き
春の末の沖るは 續 約

頂笠 頂笠 頂笠 頂笠 頂笠 頂笠

冬
三
景

初春の雪 傍案の雪を
破てきくも 出さくも 毎
上京のわくを 飛りく 函
梅のるのあを 袖の巻法
表より の雪子 冷く 跡の月
春のよき 一より 宗方
架の縁を 誰彼 あり 子
近 年 函 の 出 未 上 合 よ ぎ
一 節 春 水 の 跡 ら け 出 暎
揚る 雪 雀 の 長 き 時
多 雪 子 結 氷 の 美 妙 極
俄 然 白 の 画 を 先 子 出

和 全 風 和 風 和 風 和 風 和 風 和

一昔前の如きも あり けり
鐘を 清 鐘 子 さる 山 公 子
團 扇 裏 雪 の ほ 見 き 子 森 乃 男 性
狐 の 畏 れ 又 後 々 音 々 鼓
松 陰 子 子 難 の 細 々 々 々
下 の 向 出 未 々 々 々 々 々 々 々
何 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
秋 の 暑 さ 小 小 々 々 々 々 々 々
刈 込 子 子 子 子 子 子 子 子 子
を 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
娘 板 子 子 子 子 子 子 子 子 子
中 子 子 子 子 子 子 子 子 子

和 風 和 風 和 風 和 風 和 風 和 風 和

冬

和

宿剱のえれそれく張舟
五うらや一まぢる和雷
ちるむの娘ふしゆる福田川
娘ハ昔もれれ鉄くく出る

源の音の左女子三一和雷
本くそくくくくくくくくく
舞舞を一つ子くくくくく
夢生子子くくくくくくく
道の市は妻子侍つふ世
時をさうは音の峰あり

和風和風

菊田
源 秀 芳
源 秀 芳 田 芳 田 芳

春て来る河の流の生喚え
江戸海斗り左けはのよき
は通りの流と山依りくくく
時の鐘とハ去り娘くくく
ふきとくく杯室の娘の娘まき
煮きとくくくくくくくく
夕月の流くくくく山の橋
春のふきとくくくくくく
春のふきとくくくくくく
聖のハ美店 娘のくくく
順満一むまのふのくくく
妻のくくくくくくく 色

田 芳 田 芳 田 芳 田 芳 田 芳 田 芳 田 芳

冬

五

葉のかけはあつて白き牡丹は
華小兒は松葉はちりりと
鮮魚塩茹より八重折り
くくろあききよ糖衣をよぬ
ちくろくくと小春も後る朝月
とあろろ造る里の上東秋
撰りけりてとと一葉の江戸早
頃ううううと秋をそあける
は屋敷はととととと連ふ雙形
雲白の縁負を採らぬ秋

雀橋
士
橋
橋
橋
橋
橋
橋

雪押す鶴の餅を前橋の下
ふ二と筑波はいつも足はうね
月けりよをれまを宿をかりる月
秋風のふと味増の口はけ
刺合の鹿角より欠る下葉
夫立の葉の干かろろろろろ
ふあは青の著徳をさうまを
井のあるとはぬるあきまうり

橋
橋
橋
橋
橋
橋
橋
橋

秋空や雪より風吹田面の白
かり着雪より入申る秋空

集玉
尚
田

冬

集玉

雪の寒のさましく結ぶより月
 宵のつら月の影文より
 振舞の揺アの休止出来振ひ
 かねりの端よりある楳の空
 新きらたまうきき宮の津鏡る
 物せ田よまきる里の舞張
 舞うる夜の何喰ふやう鳴る戸簾
 柵のききひみ風かきるまう
 帷子の新も短のきき國武士
 竹かアアアアアアアアアア川
 若ふ身とまきき月よ若ふあう
 ハ幡ちりりみ果えん歌空

西

玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉

荷一餅もまうく弱め下りてまう
 悠葉のうまきき屋の舞目
 雲よりよまうつらまのいろ
 の永まえんまう津田の山お
 神まの徳をまききまのま
 新もくまう免れまのよま
 ふまのまをまききまのま
 法正をまのまききまのま
 ままのまのまききまのま
 仮の情のまききまのま
 脊戸口のまききまのま
 新おのつらまのま

玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉 玉

冬冬

五十一

めんよきしと粒のきまぬ思無種
板ののがととさのゆき

丹

四つをきと家より板の五時
面一りきりる中後乃月
鏡持のほまを待る皆ま
りつりと又申る片鏡のき
喰嫌子あきけと一言打掛
れくくする餅かお梅
新との雲の雲と喰のそり
空めと縁をきりるさき

言
延 祥
文 咲 子
我 福 我
州 我 亦 福 我

物なき夕の夢の氣はゆる
手をとくしきりて遠なる者
積木屋の喰をつぶせと月元芬
聖ののの和をきりて梅の
山依のほまの茶をさうれ
二階をきりてはとて雲
星うきと蝶のを靴の落し
いさふ湯漬の弱子支つる
初米のゆきをぬきし
菓をきりてゆきのゆき
拾の砂をきりて梅のゆき
女とあきりてゆきのゆき

亦 祥 州 我 亦 祥 州 我

姪娘日かききくれぬまききり
新白あり子給着てりりり
能路なきまきれりなき冨本の
所用は亦ハ車通さぬ
りやくと兼及男集りて
まのいれれの清い晴るち
は留まると個まのつぬ宮の籍
小石子刻てまのりりりりり
春やうてふ戸のちる月の宮
かーその端に折ちりや
赤撲きる縁儀を意子獨り
りれりささ程あまるかうり

州 我 尔 祥 我 州 祥 尔 州 我 尔 祥

十日月子やうく明く大井川
縁女らーては指のまきり
順きりる崎けさむりりり
着るとりりる新敷の糸

我 州 祥

空の昔もききりては秋の山
岸の落子沙るる月 新
夏宮橋のゆききり自勝りり
大戸のりり出る居風号
煙臺の初いきのりりりりり
宵の小向子意のとれや

海 号 海 号 海

冬

冬

出逢の子さうさうさうさうさう
 序地のり共さもつて祝
 年暮のよきまにやを云ふ
 歳忘れまふさつける
 俗まの紅の月の光かつり
 縁子同士の縁は内縁
 夕月子産まうつと雪のふ
 精と雲木ハあつてまづ
 福増子さうさうさうさう
 星の光の光の光の光の光
 崎子さうさうさうさうさう
 うさくぬるか呼あの子

海 空 号 海 号 海 号 海 号 海 号 立

五七

海堂主成とて死す

歳之年の燈子養育る事
 旅をささるるいさあれ乃鴨
 山のさき國の限りを画
 信先子さうさうさうさう
 毛見子さうさうさうさう
 本城——いさあれ乃鴨
 院住といさるの秋は十
 手見茶の作をさうさう
 二親の志は学鞋はさう
 向乞る乃新 寺さう

冬

五七

以見

海 空 号 海 号 海 号 海 号 海 号 立

松籟を聴きくよつろくはけ
きいおつ然のりり子あつろ
渾舟は花よみは唄ふ月の影
紅葉のいろをいそぐあ房の
根ふしと枝を牡丹の歌詠り
古い佛のしけ孫の来ぬ
永きやふふの都をけいこ
ぬるか流まじり羽をきくはる

半兄半兄半兄半兄

負外

手はとや後子見送る木の音の
七州のちりりあつろく母子うろ
多あつろくはる秋の海
耕平のあつろくはるふり
又もや秋をきくはるはる
眼いろは秋のりんちり平小あつろく
仮初子あつろくはるはる
袖細くはる平小あつろくはる
行帰は秋のりんちり平小あつろく
空毎子あつろくはるはる
木の音のあつろくはるはる
木の音のあつろくはるはる

雄嶽
梅家
一具
而后
吉富
回二
山子
吟如
葉源
ノ左
乙彦
吾正

負外

降止了るるりとはなまきり
尾流 官彦
 子毎子並あうぬやまの處
天字 一五五 華野
主に
 懐松くあけの處なきとらひ
疎形 我情
重多
 玉の艶葉ようまの如くまき
重多 相家
 五翫崎戸存かきうる宙の舟
き飛 若成
 掛あつて巻てらんまうまき
 露のハねらけりまうねの陰
伝居 五夫
 けり子やまきりまきり市の人
伝居 少岐
 操人のるえは松城まき紫が
重多 夢芳
 序よまきり清り魚り
大崎白 武居 橋は
 若ふえれたるりまうあつえ
 遊書

豊まよはたの思海はな
 年くふ盡る花も伝史に
 以てまよふ今まよふと車
 累千回友持海まの海
 子頻千海一連白さ尾
 玉の艶と鏡さしと
 いし細く一真あさう
 さのりてまきり
 口まよふより清りま

携りし行あるはたきり鳴呼其の体ん
 しく祖傳のま個はもりかゝし集ととの
 しく初書と女とむの心なへし作ら
 ありむやと候いしきし舞や己お好し
 國よまきおあきしよあしむかゝりて
 心しきおとからるきしきしおとら
 抄きし書きよき尾よはる事よはりし

五惠楼千字



三都

京都三條通外屋町 出雲寺文次郎
 大坂心齋橋筋安堂寺町 秋田屋太右工門
 江戸日本橋通一丁目 須原屋茂兵衛
 同浅草茅町二丁目 同 伊八
 同日本橋通二丁目 小林 新兵衛
 同二丁目 山城屋佐兵衛
 同芝神明前 岡田屋嘉七
 同本石町二丁目 英 大助
 同本石町十軒店 播磨屋勝五郎板

書林

